

いなばの しるべやが

ふくなが たけひこ 文

1

いざもの國から おとなりの いなばのくにへ 行く とちゅうの 海岸を、八十人の

兄弟のかみさまが、行列を作つて 歩いて いました。

2

すると うさぎが 一ぴき、はだかで ふるえて いました。八十人の兄弟は、「海の 水で 体を あらって、それから かぜに ふかれて よく かわかせば、そのうち 毛が 生えて くるさ。」

と 言つて、みんな わらいながら そばを 通つて いきました。

うさぎが 言われた とおりに すると、しお水が かわいて くるにつれて、風が 当たると、体中 ひりひりして きました。うさぎは いたくて たまらず、ころげながら おいおい ないで いました。

3

八十人の 兄弟の いちばん おしまいに、おおくにぬしが いました。

「うさぎくん、どう したんだい？ わけを 話して ごらん。」

と、おおくにぬしが やさしく たずねました。

うさぎは 赤い 目を パチパチさせて、

「あなたは 親切な かたです。じつは、こう、う わけなんですよ。」

と、話はじめました。

ぼくは、むこうに 見える おきのしまに すんで いる うさぎです。なんとか し

4

「あなたは 親切な かたです。じつは、こう、う わけなんですよ。」

と、話はじめました。

て、海をわたってこの国へ来たいものだと思っていたんですが、ぼく、およげないんですよ。すると、めいあんがうかびました。わにのやつをだましてやろうと考えたんです。

「ぼくはわにに言つてやりました。

「わにくん、このしまにいるぼくたちうさぎど、きみたち海にいるわにと、

どっちが数が多いと思つ？」

「さあ、わからないね。」

と、わにが答えました。

「きみたちは、海の間をずうと一列にならんでござらん。そうしたら、ぼくがきみたちのせなかをふんで、一つ、二つ、と数えてみよう。ぼくは数えるのはうぼくがそういうと、わにはしばへ考えてから、

「めいあんだ。やってみよう。」

と、答えました。

「上にならびました。

そこで、ぼくは、はじめのわにのせなかにのって、

「一〇。」

も一〇ぴょんととびのって、

「いい。」

もーひびよんと とびのって、

「いい。」

と、数えながら、ぴょんぴょんきしの方へ近づいてきました。そしてもうだ

いじょううど いう といで、思わずさけんでしました。

「ぼくは こっちの 国へ 来たかつたんだ。ほうら、まんまと きみたちを だましてやつたぞー。」

ところがね、そこは まだ いちばんおしまいの わにのせなかの上、あつというまに、そいつが ぼくの 毛皮を はぎとつてしまつたのです。

せつかくりくちに ついたのに、ぼくは はだかで ふるえて いました。

そこに、あなたの 兄弟の 八十人の かみさまが 通りかかったのです。

おおくにぬしは、うさぎの 話を 聞いて 言いました。

「それは ひどい めに あつたね。では こう しなさい。よく 体を あらい、がまの

花の 黄色い かぶんを 地面に まいて その 上を ぐるぐる ころげて ごらん。」

うさぎが 教えられた とおりに やつてみると、たちまち 毛皮の ある もとの体に もどりました。

——これが、いなばの しろうさぎです。

8

9

※いづもの国…今のしまねけんの東部。

いなばの国…今のとつとりけんの東部。

おおへにぬし…いざもとの国のかみさまの名前。

わに…さめ

▼『古事記』には、いろいろなかみさまのお話がのっています。むかしから大切に伝えられてきた、ほかのお話も読んでみましょう。